

目標指標一覧

基本目標Ⅰ 備える ～市ぐるみで地域福祉を進める体制づくり～

個別目標	目標指標	H24 時点	H25 実績	H26 実績	参考 H28の目標
1知る・学ぶ	地域福祉計画の進行状況の公表	-	-	-	毎年1回
	福祉体験学習の実施校(高校を含む)	11校	9校	9校	15校
	住民による福祉資源マップの整備	-	-	-	9小学校区分
2参加する	自治会加入率	69%	68%	68%	75%
	ボランティアセンター登録者数	延1,328人	延1,374人	延1,522人	延2,000人
	市民活動推進センター登録団体数	50団体	55団体	53団体	60団体
3支える	各種ボランティア養成講座数(市社会福祉協議会)	10講座	10講座	10講座	15講座
	地区社会福祉協議会の拠点数	5ヶ所	5ヶ所	5ヶ所	9ヶ所
	地域福祉コーディネーターの人数	-	0人	0人	9人

基本目標Ⅱ 行動する ～地域の力で元気を支えあうまちづくり～

4育みあう	登下校の児童見守りパトロール活動者数	65人	61人	65人	80人
	障がい者職場実習受け入れ事業所数	2カ所	2カ所	2カ所	10ヶ所
5助けあう	地域見守りネットワークの数	準備中	準備中	※1	9小学校区
	定期開催しているサロンの数	32	32	32	50
	認知症サポーターの数	368人	868人	1,244人	2,300人
	65歳以上市民のうち「何かあったとき駆けつけてくれる近所の人がある」という人の割合	24%	-	-	40%以上
6いざという時助けあう	災害時要援護者避難支援マニュアルの作成	-	-	-	平成25年度中までに作成
	避難支援プラン(個別計画)対象者のプラン作成率	-	-	-	平成26年度中までに着手

※1…市内全域を対象とした高齢者見守りネットワーク事業を実施。

基本目標Ⅲ つなぐ ～福祉サービスが安心を支えるまちづくり～

7相談する	介護が必要になった時「適切な相談先がわからない」という市民の割合(40～64歳)	19%	-	-	10%以下
	権利援護体制の整備(市社会福祉協議会)	-	-	-	H28年度までに整備
	成年後見人制度を知っている市民の割合(40～64歳)	52%	-	38%	70%
8サービスを利用する	介護予防手帳の活用(冊数)	2,698冊	3,152冊	3,447冊	5000冊
	「介護保険サービスの利用の仕方がよくわからない」という市民の割合(40～64歳)	38%	-	43%	25%以下
9事業を培う	福祉サービス事業者の地域ぐるみネットワークへの参加率	-	25%	56%	100%
	子育て支援チーパス加入店舗数	12店舗	-	26店舗	30店舗
10拓く	新たな福祉システム(サービスや制度)の開発件数	-	-	1件	累計5件

白井市地域福祉計画の進捗状況

※ 評価方法 A:事業内容が大いに進んだ。 B:事業内容が概ね進んだ。 C:事業内容はあまり進んでいない。

めざす姿:ふれあい、育みあい、助けあい、ともに生きるまち

基本目標: I 備える ～市ぐるみで地域福祉を進める体制づくり～

個別目標	施策	事業の内容	25年度事業の主な取り組み	26年度事業の主な取り組み	評価	備考
1知る・学ぶ ～情報と認識の共有化～	(1)地域福祉の意識づくり	地域福祉について様々な学びの機会の充実を図る。	なるほど行政講座の実施。 ボランティア養成講座の実施(市社協)10講座。 モデル地区2地区について、地域ぐるみ福祉ネットワーク会議の開催。	なるほど行政講座の実施。 ボランティア養成講座の実施(市社協)10講座。 モデル地区において、地域ぐるみ福祉ネットワーク会議の開催。	B	
	(2)福祉教育の推進	互いに支え合うまちづくりを進めるため、福祉教育を推進する。	小中学生の福祉施設の見学や福祉体験学習の実施(9校)。 中学生の福祉施設等での職業体験。	小中学生の福祉施設の見学や福祉体験学習の実施(9校)。 中学生の福祉施設等での職業体験。	B	福祉体験学習は、福祉機材の貸し出し状況から9校としているが、福祉施設見学は、保育園・小中学校等で年間行事として行われている。
	(3)福祉情報の充実	市民が福祉サービス等を適切に利用するため、福祉情報の提供と周知を進める。	小学校区別のあんしんいきいきマップ(高齢者交流の場・集いの場)の市HPへの掲載。 なるほど行政講座の実施。 保健福祉ガイドブックの発行。	小学校区別のあんしんいきいきマップ(高齢者交流の場・集いの場)の市HPへの掲載。 なるほど行政講座の実施。 保健福祉ガイドブックの発行。	B	福祉ガイドブックは毎年度最新の情報を盛り込んでおり、健康や福祉分野の情報については、広報や自治会回覧、市HP等掲載している。

白井市地域福祉計画の進捗状況

※ 評価方法 A:事業内容が大いに進んだ。 B:事業内容が概ね進んだ。 C:事業内容はあまり進んでいない。

めざす姿:ふれあい、育みあい、助けあい、ともに生きるまち

基本目標: I 備える ～市ぐるみで地域福祉を進める体制づくり～

個別目標	施策	事業の内容	25年度事業の主な取り組み	26年度事業の主な取り組み	評価	備考
2参加する ～支えあいが生まれるコミュニティづくり～	(1)地域参加・交流の拡充	住民同士の交流を促進する地域の活動を支援する。 生涯学習プログラムの充実に努める。 多様な交流の促進を図る。	自治組織活動補助:93自治会。 地域まちづくり活動補助:9小学校区。 市民大学校の開催(受講者:115人)。 総合型地域スポーツクラブ(白井中学区)の創設。 小学校区自治会長等意見交換会の開催16回。 地域ぐるみ福祉ネットワーク会議の開催。	自治組織活動補助:94自治会。 地域まちづくり活動補助:9小学校区。 市民大学校の開催(受講者:105人)。 総合型地域スポーツクラブ(障害児者)の創設。 小学校区自治会長等意見交換会の開催12回。 地域ぐるみ福祉ネットワーク会議の開催。	B	サロンの数もわずかながら増加しており、市社協からも活動補助金を設ける等、サロンの運営を支えている。 総合型スポーツクラブについては、各地区ごとに加え、障害者スポーツクラブが新たに創設されている。
	(2)福祉サービス利用者団体の活性化支援	介護を必要とする人や障害者、その家族など、同じ悩みを持つ人同士が交流、情報の収集・交換ができるよう、福祉サービス利用者団体の活動を支援する。	心身障害者連絡協議会に補助金交付。 精神障害者家族のための講座開催。 認知症家族の会の開催情報等を市HPに掲載。	心身障害者連絡協議会に補助金交付。 精神障害者家族のための講座開催。 認知症家族の会の開催情報等を市HPに掲載。	B	
	(3)NPO・ボランティア団体の活性化支援	ライフスタイル等に応じ、様々な地域活動や市民活動に参加する機会を拡充するため、NPO・ボランティア団体の育成支援を充実する。	高齢者クラブへの補助金交付。 市民活動推進センターの運営。 ・登録団体数:55団体 公益活動を行う団体に補助:7団体。	高齢者クラブへの補助金交付。 市民活動推進センターの運営。 ・登録団体数:53団体 公益活動を行う団体に補助:6団体	B	

白井市地域福祉計画の進捗状況

※ 評価方法 A:事業内容が大いに進んだ。 B:事業内容が概ね進んだ。 C:事業内容はあまり進んでいない。

めざす姿:ふれあい、育みあい、助けあい、ともに生きるまち

基本目標: I 備える ～市ぐるみで地域福祉を進める体制づくり～

個別目標	施策	事業の内容	25年度事業の主な取り組み	26年度事業の主な取り組み	評価	備考
3支える ～地域福祉を支える体制の基盤づくり～	(1)ユニバーサルデザインのまちづくりの推進	すべての市民がバリアを感じることなく、のびのびと参加・活動できるまちづくりを推進する。	声の広報しろい(CD)の活用。 ノンステップバス4台の運行。	声の広報しろい(CD)の活用。 市HPの音声案内(平成27年3月から実施)。 ユニバーサルデザイン、バリアフリーを考慮した庁舎建設を計画。 ノンステップバス4台の運行。	B	
	(2)地域福祉を担う人材の育成・確保	より多くの市民が、地域福祉を支える人材として活躍できるよう、研修・講座を充実する。 地域福祉コーディネーターの養成・配置を行う。	ボランティア養成講座(傾聴ボランティア、初級手話、保育ボランティア等の養成講座等)の実施(市社協)。 地区社会福祉協議会の拠点施設の維持管理費助成。	ボランティア養成講座(傾聴ボランティア、初級手話、保育ボランティア等の養成講座等)の実施(市社協)。 地区社会福祉協議会の拠点施設の維持管理費助成。 コミュニティソーシャルワーカー研修への職員の参加(3名)。	B	人材の確保については、市、市社協共に研修講座を開催し務めているものの、人材の派遣(地域福祉コーディネーターの配置)までには至っていない。
	(3)地域福祉ネットワークの整備	地域ぐるみネットワーク、市ぐるみネットワーク、庁内連携ネットワークを整備する。	2地区をモデル地区とし、地域ぐるみ福祉ネットワーク会議を開催。	地域ぐるみ福祉ネットワーク会議(モデル地区)を開催。	C	高齢者分野における地域ぐるみ福祉ネットワーク会議は開催されているものの、コーディネーターが未設置であること、庁内の連携ネットワークが未整備であることから、評価をCとした。

白井市地域福祉計画の進捗状況

※ 評価方法 A:事業内容が大いに進んだ。 B:事業内容が概ね進んだ。 C:事業内容はあまり進んでいない。

めざす姿:ふれあい、育みあい、助けあい、ともに生きるまち

基本目標:Ⅱ 行動する ～地域の力で元気を支え合うまちづくり～

個別目標	施策	事業の内容	25年度事業の主な取り組み	26年度事業の主な取り組み	評価	備考
4育みあう ～生きがいを育み、子どもをともに育てる地域づくり～	(1)健康づくりの支援の推進	地域で健康づくりや介護予防に取り組む団体等の活動支援、地域と連携した予防活動の充実を推進する。	脳いきいき教室等介護予防事業の実施回数:200回 保健師の自治会長交流会への出席(8回)。	脳いきいき教室等介護予防事業の実施回数:175回 保健師の自治会長交流会への出席(7回)。	B	
	(2)子育て・子育て支援の推進	子育てサークルや子育てサロンの育成、地域の子どもをみんなで守り育てる活動を推進する。	子育て支援センター(清水口保育園・南山保育園) ・つどいのひろば(白井ふじ保育園・こざくら保育園・はなぶさ保育園) ・ファミリーサポートセンター事業の実施。 児童館事業:「親子教室」・「子育てサロン」・「お料理教室」・「児童館まつり」・「駅前遊学」・「育児相談」	子育て支援センター(清水口保育園・南山保育園) ・つどいのひろば(白井ふじ保育園・こざくら保育園・はなぶさ保育園) ・ファミリーサポートセンター事業の実施。 児童館事業:「親子教室」・「子育てサロン」・「お料理教室」・「児童館まつり」・「駅前遊学」・「育児相談」	B	
	(3)生涯学習・芸術・文化・スポーツ等による生きがいづくりの推進	市民が、芸術・文化・スポーツ・学習活動を通じて生きがいを育めるよう支援する。	・白井梨マラソン大会 ・スポーツフェスタ(体力測定、軽スポーツ、スポーツゲーム等) ・各種スポーツ大会など(軟式野球他17競技) ・白井市文化団体協議会活動の支援(補助金交付、講座の開催)	・白井梨マラソン大会 ・スポーツフェスタ(体力測定、軽スポーツ、スポーツゲーム等) ・各種スポーツ大会など(軟式野球他17競技) ・白井市文化団体協議会活動の支援(補助金交付、講座の開催)	B	
	(4)自立支援の推進	市民が自立した生活を送れるよう、相談体制の強化、就労・自立生活設計を支援する。	障害者就労支援員の配置(1名)。 障害者の就労実績:1名 高齢者就労指導講座(シルバー人材センター):24回	障害者就労支援員の配置(1名)。 障害者の就労実績:7名 高齢者就労指導講座(シルバー人材センター):16回	B	

白井市地域福祉計画の進捗状況

※ 評価方法 A:事業内容が大いに進んだ。 B:事業内容が概ね進んだ。 C:事業内容はあまり進んでいない。

めざす姿:ふれあい、育みあい、助けあい、ともに生きるまち

基本目標:Ⅱ 行動する ～地域の力で元気を支え合うまちづくり～

個別目標	施策	事業の内容	25年度事業の主な取り組み	26年度事業の主な取り組み	評価	備考
5助けあう ～多様な 支えあい が広がる 地域づく り～	(1)互助の推進 (支えあい運動の 展開)	ゴミ出し、外出の付き添い、子どもの預かり等、住民同士の互助活動が広がる環境をつくる。	地域ぐるみ福祉ネットワーク会議において、地域の課題について検討。	地域ぐるみ福祉ネットワーク会議において、地域の課題について検討。	B	
	(2)集いの場(サロン)作りの推進	「サロン活動」を支援し、地域で支え合う関係づくりを進める。	市社協によるふれあいいきいきサロン助成事業。	市社協によるふれあいいきいきサロン助成事業(2サロン)。平成26年4月～ 広域型サロン「梨の実」の開設。	B	
	(3)見守り活動の推進	独居高齢者や要支援者が、地域で孤立することなく安心して暮らしていけるよう、見守りの協力体制を充実する。	民生委員と在宅介護支援センター等の連携による見守り活動。	民生委員と在宅介護支援センター等の連携による見守り活動。平成26年7月 白井市高齢者見守りネット 開始	B	
	(4)助けあいサービスの推進	移動支援、手話・朗読等のコミュニケーション支援、家事援助等の支えあい活動を推進し、費用負担・活動拠点の確保等のしくみづくりを構築する。	高齢者在宅福祉事業の実施(利用者:942人) (事業内容:外出支援、緊急通報装置貸与等) 介護支援ボランティア制度の実施(登録者数:105人)	高齢者在宅福祉事業の実施。(利用者:900人) (事業内容:外出支援、緊急通報装置貸与等) 介護支援ボランティア制度の実施。(登録者数:149人)	B	

白井市地域福祉計画の進捗状況

※ 評価方法 A:事業内容が大いに進んだ。 B:事業内容が概ね進んだ。 C:事業内容はあまり進んでいない。

めざす姿:ふれあい、育みあい、助けあい、ともに生きるまち

基本目標:Ⅱ 行動する ～地域の力で元気を支え合うまちづくり～

個別目標	施策	事業の内容	25年度事業の主な取り組み	26年度事業の主な取り組み	評価	備考
6いざという時助けあう～災害時その他の援護活動の体制づくり～	(1)要援護者の避難支援体制の確立	市と地域の連携により、要支援者の状況把握、情報の共有化、避難、避難生活までの一貫した支援体制を確立する。	地域防災計画の修正。 自主防災組織新設2団体。	自治会向け災害時対応マニュアルの作成、配布。 自主防災組織新設3団体	B	地域防災計画の修正や自治会向け災害時対応マニュアルが作成されているが、避難行動要支援者の状況把握や情報の共有化が進んでいないことから、Bとした。
	(2)要援護者情報の適切な活用	地域での援護体制を作るため、要支援者名簿を、本人同意の上、自治会や民生委員等と共有し、日頃の見守りに活用する。	高齢者名簿、児童名簿を民生委員・児童委員に提供し、日頃の民生委員の見守り活動に活用。	高齢者名簿、児童名簿を民生委員・児童委員に提供し、日頃の民生委員の見守り活動に活用。	C	地域の援護体制を作るための避難行動要支援者名簿の作成について、着手されていないため、Cとした。
	(3)避難支援訓練等の実施	災害時等に動ける実践的な体制をつくるため、避難訓練等を実施し、これを地域住民同士の親睦等に活かす。	防災訓練の実施(第一小学区)。	防災訓練の実施(第二小学区)。	B	

白井市地域福祉計画の進捗状況

※ 評価方法 A:事業内容が大いに進んだ。 B:事業内容が概ね進んだ。 C:事業内容はあまり進んでいない。

めざす姿:ふれあい、育みあい、助けあい、ともに生きるまち
基本目標:Ⅲつなぐ ～福祉サービスが安心を支えるまちづくり～

個別目標	施策	事業の内容	25年度事業の主な取り組み	26年度事業の主な取り組み	評価	備考
7相談する ～福祉相談ネットワークの充実～	(1)相談窓口の充実	多様な相談の手段や窓口を用意し、市民が気軽に相談できる環境をつくる。	保健福祉ガイドブックの発行及び活用。 市窓口や指定相談支援事業所、関係機関等で相談支援の実施。 相談件数 :障害福祉分野2,526件 :高齢者分野2,131件	保健福祉ガイドブックの発行及び活用。 市窓口や指定相談支援事業所、関係機関等で相談支援の実施。 相談件数 :障害福祉分野2,367件 :高齢者分野2,166件	B	
	(2)相談ネットワークの整備	保健福祉相談室と地域包括支援センターを核に、多様な窓口をつなぐネットワークをつくる。	ネットワーク会議等の庁内連携(月1回)。 市社協「心配ごと相談」市社協の相談業務と連携。 民事協貸付金制度。 夜間対応の工夫として、夜間通報装置の設置。	ネットワーク会議等の庁内連携(月1回)。 市社協「心配ごと相談」市社協の相談業務と連携。 民事協貸付金制度。 夜間対応の工夫として、夜間通報装置の設置。	B	
	(3)権利擁護の体制づくり	判断能力が不十分になっても、生活に必要な事務管理や金銭管理を代行する等の支援する仕組みを充実する。	高齢者の権利擁護事業として、地域包括支援センターで511件の相談支援。	高齢者の権利擁護事業として、地域包括支援センターで611件の相談支援(虐待の相談支援311件、後見人制度支援300件)。	B	

白井市地域福祉計画の進捗状況

※ 評価方法 A:事業内容が大いに進んだ。 B:事業内容が概ね進んだ。 C:事業内容はあまり進んでいない。

めざす姿:ふれあい、育みあい、助けあい、ともに生きるまち
基本目標:皿つなぐ ～福祉サービスが安心を支えるまちづくり～

個別目標	施策	事業の内容	25年度事業の主な取り組み	26年度事業の主な取り組み	評価	備考
8サービスを利用する ～福祉サービスの適切な利用の推進～	(1)適切なケアマネジメントの推進	支援が必要となっても、自分らしい生活が送れるよう、本人・家族・専門職・地域の人材によるケアマネジメントを展開する。	介護予防ケアマネジメント:1,262人の二次予防高齢者のうち171人に対し、地域包括支援センターの訪問実施。	介護予防ケアマネジメント:1,262人の二次予防高齢者のうち171人に対し、地域包括支援センターの訪問実施。	B	
	(2)福祉サービスの有効利用の推進	介護保険法や障害者総合支援法に基づく適切なサービスの利用や、認定外の人にも必要に応じサービスを利用し、自分らしい生活を維持できる環境づくりをする。	質のよい福祉サービスを提供できる体制づくり (介護相談員派遣事業の実施。) 介護支援専門員スキルアップ連絡会の開催。	質のよい福祉サービスを提供できる体制づくり (介護相談員派遣事業の実施。) 介護支援専門員スキルアップ連絡会の開催。	B	
	(3)総合的・包括的な支援の推進	福祉サービス事業者と地域が、福祉ネットワークを活用し、一人ひとりの包括的なケアを実現する。	地域包括支援センターによる訪問、サービス事業所の増加及びケア体制の拡充などを通じて、在宅生活を支えるサービスの利用が促進。→要介護度の重度化抑制に効果。	地域包括支援センターによる訪問、サービス事業所の増加及びケア体制の拡充などを通じて、在宅生活を支えるサービスの利用が促進。→要介護度の重度化抑制に効果。	B	

白井市地域福祉計画の進捗状況

※ 評価方法 A:事業内容が大いに進んだ。 B:事業内容が概ね進んだ。 C:事業内容はあまり進んでいない。

めざす姿:ふれあい、育みあい、助けあい、ともに生きるまち
基本目標:皿つなぐ ～福祉サービスが安心を支えるまちづくり～

個別目標	施策	事業の内容	25年度事業の主な取り組み	26年度事業の主な取り組み	評価	備考
9事業を 培う ～地域と ともに発 展する 「福祉関 連産業」 の形成～	(1)福祉サービス事業者との連携強化	福祉サービス事業者が、地域福祉に貢献できる環境を作る。	事業者の地域ぐるみ福祉ネットワーク会議への参加。 多職種合同研修会の開催。	事業者の地域ぐるみ福祉ネットワーク会議への参加。 多職種合同研修会の開催。	B	
	(2)福祉産業従事者の育成	福祉サービスや事業所の従業者が、誇りを持って活躍できるよう、研修や交流の機会をつくる。	社会福祉大会での功労者表彰(市社協)	社会福祉大会での功労者表彰(市社協)	B	
	(3)「人にやさしい産業」のまちづくりの推進	商工業や農業等、地域の様々な産業の福祉への参入や地域福祉への貢献の促進等、地域福祉と地域産業が連携し、地域活性化につながるよう促す。	保健福祉センター内の喫茶「たんぽぽ」の運営。 就労継続支援B型事業所ぽけっとによる野菜販売の実施。	保健福祉センター内の喫茶「たんぽぽ」の運営。 就労継続支援B型事業所ぽけっとによる野菜販売の実施。 広域型サロン「梨の実ひろば」での、障がい者就労事業所の製品販売。	B	

白井市地域福祉計画の進捗状況

※ 評価方法 A:事業内容が大いに進んだ。 B:事業内容が概ね進んだ。 C:事業内容はあまり進んでいない。

めざす姿:ふれあい、育みあい、助けあい、ともに生きるまち
基本目標:Ⅲつなぐ ～福祉サービスが安心を支えるまちづくり～

個別目標	施策	事業の内容	25年度事業の主な取り組み	26年度事業の主な取り組み	評価	備考
10拓く ～将来につながる 新たな福祉システム の開発～	(1)新たなサービスや活動の開発	新たなサービスや活動の改良・開発を進めるための実践事業を推進。	-	地域ぐるみネットワーク会議から、高齢者見守りネットワーク事業への意見の反映。	B	
	(2)地域福祉を支える仕組みの開発	ネットワーク体制や人材の育成確保、助け合いの持続的発展を支える仕組みなどを必要に応じて制度化する。	-	-	C	高齢者在宅福祉事業等、制度化されているものもあるが、地域での助け合いの仕組みづくりの制度化については現在のところない。 ※地域包括ケアシステムについて、今後の動きを注視する。